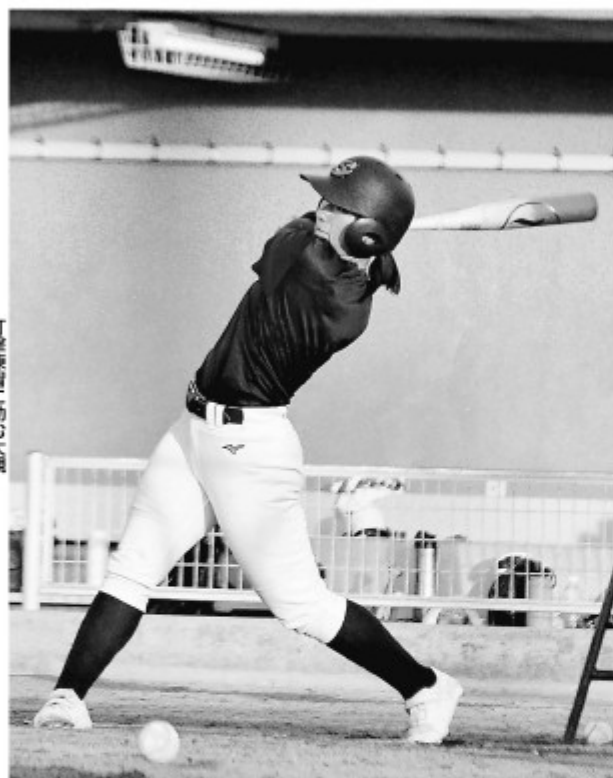


頼られる捕手に 成長誓う

仙台大女子硬式野球部 石巻・雄勝出身の大槻



打撃練習に励む大槻

全国2連覇に貢献

5月の全日本大学女子硬式野球春季大会（高知県）で2連覇を果たした仙台大で、石巻市雄勝町出身の2年大槻真奈（19）が優勝に貢献した。1年時は出場機会に恵まれなかったが、今大会は7試合中2試合でスタメン出場を果たした。「頼られるキャッチャーになりたい」という思いを胸に、さらなる成長を誓う。

（納代真奈）

打撃では2試合で計2安打を放ち、守備では投手と積極的にコミュニケーションを取りながら試合を組み立て、2試合とも無失点に抑えた。「2連覇できてうれしい。チームに貢献できたと思う」と胸を張る。

全国大会の舞台は特別だった。「うまい選手ばかりだったが、思い切りプレーできた。不安は全くワクワクした。大舞台の空気を楽しめるようになったのも、日々の積み重ねがあったからだ。

野球を始めたのは小学2年生。父親がかつて教わった指導者から声をかけられた。競技を続けるうち、その楽しさに魅了された。女子中学生軟式野球チーム「宮城アイジーズ」、日本ウェルネス宮城高でも野球

に打ち込んだ。

大学は、将来の夢である保育士や幼稚園教諭の資格取得と野球を両立できる環境を求めて仙台大を選んだ。自主練習の時間が増え、自ら課題を見つけて改善する力が身に付いた。特に力を入れたのが二塁送球の精度向上。力任せではなく、リラックスして投げることを意識した。入沢裕樹監督は「1年生の時に比べて送球が格段に良くなった」と

目を細める。

捕手として大切にしているのは投手との信頼関係だ。普段から野球以外の会話も重ね、試合前には投球の状態を細かく確認する。調子が良い球種、悪い球種などを共有しながら最善のリードを導く。

「目標はレギュラー定着と打率5割。もっとチームに貢献したい」。日本一の経験者自信に変え、攻守の要としての飛躍を目指す。